

您好台湾!! ほうふ日報版 1~6

我愛台灣!! 台灣友好俱樂部會報 您好台灣!! 2・3

您好台灣!! ほうふ日報版

1. 陳澄波の命日に思う

台灣友好俱樂部 會長 相嶋 秀雄

3月25日(火)は、陳澄波(ちん とうは)の命日です。

陳澄波は、下関条約が締結された1895年に台灣・嘉義市で生まれました。日本統治時代を生き、東京美術学校(現東京芸大)留学後に、上海で教壇に立ち、台灣に帰国。台灣画壇の中心的存在になりました。

終戦後、台灣は中華民國の統治下になり、陳澄波は植民地でない新しい時代に夢見た矢先の1947年に「二・二八事件」に巻き込まれて、嘉義駅前で公開処刑されました。49年に戒厳令が布告され、75年に蔣介石が逝去。79年に台北の画廊で陳澄波の遺作展が開催されましたが、87年に戒厳令が解除されるまでの40年間、陳澄波に関することは、ほとんど知られることはありませんでした。陳澄波夫人の張捷さんは、いつか夫の無実が証明されることを信じながら、危険を顧みずに、夫の絵画を自宅の屋根裏に隠して守り続けました。

そんな陳澄波の描いた「東台灣臨海道路」が、防府市立防府図書館に眠っていたのです。この絵画は2015年に江泊出身の上山満之進(かみやま みつのしん)について調査していた元龍谷大(京都市)教授で円通寺(富海)住職の児玉識さんにより、図書館の倉庫で発見されました。

陳澄波の描く風景画は、近代の統治者が持ち込んだ建造物と、従来から台灣に存在するものを描いています。「東台灣臨海道路」も同様で、車道(近代)と原住民族と自然(従来)が描かれています。この絵画は、原住民族に理解があり、台灣の自然を守ろうとした上山満之進が、台灣総督退任の記念に、場所を指定して陳澄波に依頼し、描かれました。臨海道路の長い建造物に負けない清水断崖と原住民族が描かれています。額縁も原住民族の意匠であり、絵画と額縁全体で、統治者に負けない台灣の大自然とそこに住む人の力強さを表現したかったのではないのでしょうか。

現在、オリジナルは台北市で開催中の特別展「走揣・咱的所在—陳澄波百三特展」に出品中です。防府市文化センター(防府市役所8階)では、毎日「東台灣臨海道路」のレプリカをご覧ください。ご興味のある方は防府市文化センターで、陳澄波の故郷に対する思いを探してみてください。

ほうふ日報 第13407号 2025.3.25発行



村岡嗣政知事一行が2月23日に台北で「東台灣臨海道路」を鑑賞しました
写真提供:財團法人陳澄波文化基金會

2. 陳澄波 130 回目の誕生日をどう祝う?

フリーライター 謝 宜暉

陳澄波は、日清戦争中の1895年2月2日に台灣・嘉義で生まれました。現在、台北市の国立台灣博物館鉄道部パークで開催されている展覧会「走揣・咱的所在—陳澄波百三特展」は、陳澄波の生誕130周年を記念した展覧会です。

陳澄波の展覧会は、これまで何度も開催されましたが、どうしても「二・二八事件の犠牲者」、あるいは「オークションで高額落札された画家」というイメージのみが強いようです。今回、陳澄波の孫にあたる陳澄波文化基金会の陳立栢(ちん りっぱく)理事長は、絵画を新たな視点で鑑賞することにより、今まで気づきにくかった側面の陳澄波の世界観を知っていただき、陳澄波の130回目の誕生日をお祝いしようと企画しました。

故郷を愛した陳澄波の絵画には、台灣の風習やユニークな風景、過去から現在に至る歴史的記憶などが絵画の中に散りばめられています。台灣島がどのように形作られ、豊饒な島となり、現在の台灣人を生み出したのかを、博物学の視点から再探求することができるのではないかと、陳立栢理事長は考えました。

こうした理由で、美術館ではなく、国立博物館の自然誌コレクションとともに展示されています。現在の台灣の特色は北回歸線、季節風、黒潮の3つが交わることにより生まれました。北回歸線のある地域は、砂漠など過酷な地域が多いですが、台灣の北回歸線周辺の嘉義や花蓮はとても豊かな大地です。それは、台灣には3,000m級の高い山々があるので、集まった積乱雲や西南季節風が雨や霧の豊かな森を作るのです。

また台灣周辺を流れる黒潮が、台灣の海や大地を豊かにしてきました。こうして作られた豊かな台灣を特に若い世代にも伝えたいと、アニメーションも取り入れてわかり易くなっています。会期は5月11日までです。台北にお寄りの際はぜひ「走揣・咱的所在—陳澄波百三特展」にお越しください。

※謝宜暉(しえ いいふい)さん:台北在住、フリーライター兼翻訳者、児童の権利擁護者、陳澄波の外曾孫の妻

ほうふ日報 第13427号 2025.4.22発行



国立台灣博物館の自然誌コレクションと共に展示される「東台灣臨海道路」
写真提供:財團法人陳澄波文化基金會

3. 上山氏が遺した陳澄波の絵画を機に防府市の良さの再認識を！

台湾友好倶楽部 理事 中野 幸郎

ことしの2月、台北市に行き、展覧会「走揣・咱的所在—陳澄波百三特展」を鑑賞した。今回の展覧会は、台湾を幸せな場所に行っている要素の3つのテーマ「黒潮」「北回帰線」「季節風」に分けて展示されていて、美術作品と博物館のコラボ展覧会という斬新な展覧会であった。また、この展覧会を機に台湾の若者が、台湾の良さを再認識し、誇りに思ってもらいたいという狙いもあったようだ。

「黒潮」のテーマの場所に、防府市が所有している「東台湾臨海道路」がメーン作品として展示されていた。さらに、この絵がアニメーション化され、一枚の絵画が壮大な物語として表現されていた。台湾、そして嘉義の町をこよなく愛した陳澄波（1895～1947年）の作品が、この3つのテーマに大きな命を吹き込んでおり、彼の作品を通して、改めて台湾の魅力を感じることができた。

今回の展覧会に大きな役割を果たしている「東台湾臨海道路」は、防府市江泊出身の元台湾総督・上山満之進（1869～1938年）が離任する際、陳澄波に制作を依頼した作品である。どこことなく、防府の富海の風景に似ている。また、上山はこの絵画購入の後、残った退職金をすべて台湾原住民のために寄付したと聞いている。後に防府市に寄贈されたこの1点の絵が現在、防府市と台湾の架け橋となっているのだ。

では、今回の展覧会のテーマ「台湾を幸せな場所に行っている要素」を防府市に置き換えてみよう。

「防府市を幸せな場所に行っている要素」と・・・。

今、「すごいぞ！防府」と言うキャッチコピーで防府天満宮、周防国分寺、毛利氏庭園、東大寺別院阿弥陀寺のポスターをまちなかで目にする。市は「防府市景観百選」と題して、防府市の良さを捉えた写真を10月31日（金）まで募集している。

上山が遺した陳澄波の絵画が台湾の良さの再認識に貢献したように、今度は周防の国府として名付けられた歴史ある防府市の良さを防府市民が本気で再認識してみたいだろうか。

ほうふ日報 第13457号 2025.6.10 発行



「走揣・咱的所在—陳澄波百三特展」の展示（黒潮）の一部

4. 臨海道路と清水断崖

台湾友好倶楽部 会長 相嶋 秀雄

上山満之進が日本に持ち帰った陳澄波作「東台湾臨海道路」は、台湾東部花蓮北部の海岸線にある「清水断崖」です。

この辺りは、海拔1,000m級の断崖絶壁が20kmも続く難所です。日本統治が始まった1895年当時は、まだ車道はなく、1874年に清政府が建設した北路（蘇花古道）という狭い道があるのみでした。東海岸への物資は、海上から花蓮に上陸し、輸送していました。1916年に台湾総督府は、東海岸線の道路建設に取り掛かり、1925年に3.5mの道幅で「東海徒歩道」が完成しました。

さらに上山満之進が台湾総督在任中（1926～28）には、蘇澳-太魯閣口間の道路拡張工事により、一部車両の通行が可能になりました。退任後も延伸が続き、1930年に蘇澳-花蓮間の道路が「臨海道路」（現・蘇花公路）と正式に命名されました。「東台湾臨海道路」も、この年に制作されています。臨海道路は、その後も拡張が続き、1932年に完成しました。

「臨海道路」は「理蕃政策」により、台湾全土で整備が行われた道路の一つです。この道路は、原住民族を管理するための役割がありました。臨海道路が開通したことにより、便利にはなりましたが、原住民族にとっては、これまでの伝統や風習等が一変し、複雑な気持ちもあったと思われます。この頃、台湾各地で、度重なる原住民族の蜂起が起こりました。「東台湾臨海道路」の制作と同年の1930年に発生した霧社事件も、その一つです。なお、上山満之進は、当時の台湾施政方針で、台湾人と日本人の平等な扱いを統治の原則として採用しており、原住民族に対しても習慣等を尊重していた台湾総督と言われています。

1934年に日本で国立公園の指定がはじまり、台湾でも1937年に「大屯」「新高阿里山」「次高タロコ」の3カ所が国立公園に指定されました。「清水断崖」は、次高タロコ国立公園内に位置し台湾八景の一つです。また、戦前に発行された日本の特殊切手「第一次国立公園シリーズ」で、1941年に清水断崖の風景が採用されました。

2024年4月に発生した台湾東部沖地震では清水断崖周辺も被災しました。ことし7月1日、花蓮崇徳遊憩區も復旧し、清水断崖を間近に見る事ができるようになりました。機会があればぜひ、上山満之進が見た太陽で輝くターコイズブルーの美しい「清水断崖」を訪れてみてください。

ほうふ日報 第13482号 2025.7.15 発行



清水断崖
写真提供：台湾観光庁

5. アジアの新しい未来に向かって！

防府市音楽のまち創造プロデューサー 田中 雅弘

防府市の皆さん、10月12日に世界的指揮者エリアフ・インバル率いる台北市立交響楽団100人が、三友サルビアホールにやってきます。演奏曲目はマーラー作曲の大作「交響曲第5番」です。台北市立交響楽団初のアジアツアーの会場として、熊本市、福岡市、防府市のほか韓国3都市が選ばれました。世界的情勢が不安定の中でも、台湾から文化をアジアに発信し、よりアジアとの交流を深めようとしています。

指揮者エリアフ・インバル氏は89歳、世界的巨匠です。フランクフルト放送交響楽団をはじめ、世界のオーケストラの首席指揮者を歴任しています。東京都交響楽団においても、長く首席奏者を務めています。私も24年間、東京都交響楽団に在籍していましたが、エリアフ・インバル氏とともにマーラーの交響曲の演奏を続けてきました。

マーラーは9曲の交響曲を残しましたが、全ての曲が壮大かつ繊細であり、その中でも今回演奏される「交響曲第5番」は、70分を要する最高作品といえます。山口県内のホールでマーラーの交響曲が演奏されるのは初めてです。

このコンサートの聴きどころは、マーラーの解釈として世界最高といわれている89歳エリアフ・インバル氏の指揮です。オーケストラの持っている力を最大限引き出してくれるでしょう。100人にも及ぶオーケストラサウンドをお楽しみください。

エリアフ・インバル氏は、日本が大好きです。私も30年、親交を深めてきました。いつも健康に気を付けてきたマエストロの好物は、納豆・そば・玄米だそうです。

今、防府市は台湾との交流関係がより深くなってきています。防府市は、歴史的にも台湾との関係は良好です。台湾総督を務めた上山満之進、陳澄波の絵画「東台湾臨海道路」を挙げるまでもなく、防府市との関係はとても深いです。この素晴らしい文化交流の意義あるコンサートに、皆さんぜひお越し下さい。

ほうふ日報 第13516号 2025.9.9発行



世界の巨匠エリアフ・インバル指揮×台北市立交響楽団 防府公演のポスター

6. 上山満之進の台湾での業績

台湾友好倶楽部 会長 相嶋 秀雄

いまから10年前の2015年8月、円通寺（富海）住職の児玉識氏により陳澄波作「東台湾臨海道路」が防府市立防府図書館の倉庫で発見されました。この絵画は第11代台湾総督・上山満之進が陳澄波に制作を依頼したものです。今回は、上山満之進による台湾での業績について振り返りたいと思います。

■台湾銀行の救済

第一次世界大戦後の不況や関東大震災による経済混乱により1927年3月に発生した昭和金融恐慌で鈴木商店が倒産しました。台湾銀行は、鈴木商店に多額の融資をしていたため、休業に追い込まれました。しかし、上山満之進は日本政府から融資を取り付け、破綻することを回避させました。

■台北帝国大学の創設

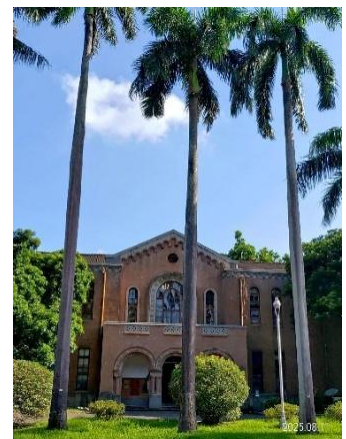
1899年に阪谷芳郎が「台湾大学設立二関スル意見」を提議しましたが、そのときには植民地であるため高等教育機関の設置が許可されませんでした。その後、1919年に台湾教育令が公布され、1924年に伊澤多喜男・第10代台湾総督が大学創設計画を具体化し、業務を引き継いだ上山満之進が1928年3月に、7番目の帝国大学として台北帝国大学（現、国立台湾大）を設立しました。当初は文政学部と理農学部の二学部でした。南方に位置する地理的条件を利用し、華南・南洋研究を担う国策大学でした。各学科とも台湾を主な研究対象とし、文政学部では、南洋史学講座、土俗・人種学講座、民族心理学、東洋倫理学など。理農学部では、製糖化学講座、熱帯・亜熱帯農業の研究等それまでの帝国大学にはないユニークな研究がされました。

■台湾民族文化の振興

台湾総督退任時の寄付により台北帝国大に設置された民俗学研究室と言語学研究室から、1935年に「台湾高砂族系統所属の研究」（日本帝国学士院賞・1936年）、「原語による台湾高砂族伝説集」（天皇恩賜賞・1936年）が発行されました。当時、国際的に広く注目を集め、現在でも文化人類学者の間で不朽の名著といわれています。両書は、三哲文庫市立防府図書館（栄町1丁目）に所蔵されています。

上山満之進は、台湾総督の任期が1年11か月と短期間でしたが、上記以外にも多くの施策を行いました。11月8日（土）から防府市文化センター（市役所8階）で、特別展「上山満之進と東台湾臨海道路」が開催されます。上山満之進に関する資料や「東台湾臨海道路」のオリジナルが出品され、5月まで台北で開催された特別展の展示の一部も再現されます。この機会にぜひ展覧会にお越しください。

ほうふ日報 第13538号 2025.10.28発行



台北帝国大学 図書館（現、国立台湾大学 校史館）
写真提供：張葆源氏

我愛台灣!!

1. 嘉義 1

嘉義市は台湾西南部の嘉南平原北端に位置し北回歸線が市内南部を通過しています。嘉義市出身の洋画家 陳澄波が1930年に描いた「東台灣臨海道路」は、防府市江泊出身の第11代台灣總督 上山滿之進が台灣總督在任終了時に陳澄波に制作を依頼し、日本に持ち帰ったものです。その後、私財を投じて1941年、防府市に設立・寄贈した三哲文庫（現防府図書館）と共にこの絵画も寄贈されました。長らく現防府図書館に保管されていましたが、2015年に防府市富海の円通寺住職 児玉識氏により陳澄波が描いたことが判明しました。

作品は縦69.5cm、横130.5cmの油彩です。題材は、1932年に開通した台灣東部、花蓮「蘇花公路」で、絵の中には太魯閣（タロコ）族らしき親子が手を繋いでいる姿が描かれています。上山滿之進は、在任中にこれまで遊歩道しかなかった東海岸に車道を整備する事業を進め、また、1928年に台北帝國大學を設立し、原住民族文化研究にも力を入れていました。絵画の制作に際し、上山滿之進が題材を決め、陳澄波が原住民の住む、タツキリ海岸（現清水断崖）を描いたとされています。

2020年に開催された国立台北教育大学 MoNTUE 北師美術館の展覧会「不朽的青春：臺灣美術再發現」では、里帰り展示された「東台灣臨海道路」を、蔡英文總統は、国立台北教育大学藝術與造形設計学系 林曼麗名譽教授に説明を受けながら鑑賞されました。



会報 您好台灣!! Vol.2 2024.3.15 発行

左:東台灣臨海道路を鑑賞される蔡英文總統
林曼麗教授(左)、蔡英文總統(中)、
李永得前文化相(右)

写真撮影:中華民國總統府

右:特別展「不朽的青春:臺灣美術再發現」のポスター
写真提供:国立台北教育大学 MoNTUE 北師美術館

2. 嘉義 2

陳澄波遺作の「玉山積雪」は嘉義市役所から見た玉山を描いたとされています。玉山(3,952m)は日本統治時代に新高山と呼ばれていた台灣の最高峰です。玉山山脈の西隣には阿里山山脈があります。嘉義縣は阿里山國家風景区や、玉山國家公園の一部を有し、嘉義市を囲むように嘉義縣があります。また、西側は台灣海峡に接し、全ての海岸線は雲嘉南濱海國家風景区に指定されています。

阿里山は一つの山ではなく、標高2,000mを超える阿里山山脈を中心とする山岳地帯をまとめて指しています。嘉義市から阿里山郷までは、阿里山森林鐵路かバスで行くことができます。阿里山郷までの道は、ガジュマルやビンロウが茂っている熱帯林(嘉義市 海拔30m)、孟宗竹や高山茶の生育に適した亜熱帯林(竹崎郷 海拔800m)、シダ、ワラビ、ヒノキの大木がある温帯林(阿里山郷 海拔2,000m)と変化にとんだ森林を楽しめます。

日本統治時代には敷設された鉄道を利用し、阿里山から嘉義市まで木材を運んでいました。阿里山から切り出されたヒノキなどの原木は、日本の神社建築等にも多く使用されています。山口県内では、防府市の防府天満宮、毛利邸、周南市鹿野の漢陽寺、下関市長府の乃木神社などがあります。嘉義市内には、製材所や木造の日本式宿舍など「木都」と呼ばれた当時の建物が数多く残っています。

また嘉義縣は農業県であり、高山茶やコーヒーのほか、柿、梨、グアバ、愛玉子、ライチなどの果実栽培が盛んです。令和6年7月9日に、嘉義縣産のパイナップルが防府市内の11中学校と4小学校の給食に出されました。翁章梁嘉義縣知事も防府市立国府中学校を訪問され生徒たちと一緒に給食を食べながら交流されました。

会報 您好台灣!! Vol.3 2024.11.8 発行



左:玉山積雪. 陳澄波, 1947-2, 木板油彩,
23.5×33cm

資料提供:財團法人陳澄波文化基金會

右:給食に出された嘉義縣産パイナップル
を味わう翁知事

写真提供:ほうふ日報

※您好台灣!!ほうふ日報版…ほうふ日報にて2025年3月25日から連載中

我愛台灣!!……………台灣友好俱樂部會報 您好台灣!!で連載中

発行日 令和7年11月23日

発行 台灣友好俱樂部事務局

所在地 〒747-0011 山口県防府市岸津 2-11-19

taiwanclub886@yahoo.co.jp

080-4556-4574 (相嶋)

